

# 化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量に係る総量規制基準

平成 29 年埼玉県告示第 784 号

水質汚濁防止法（昭和 45 年法律第 138 号。以下「法」という。）第 4 条の 5 第 1 項及び第 2 項の規定に基づき、化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量に係る総量規制基準を次のように定め、平成 29 年 9 月 1 日（以下「施行日」という。）から施行する。ただし、施行日において現に設置されている工場又は事業場（施行日前までに法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを含む。以下「既設工場等」という。）に係る特定排水（施行日以後に特定施設を新たに設置し、又は特定施設の構造等を変更するために法第 5 条又は第 7 条の規定による届出をした既設工場等に係る特定排水のうち、当該設置又は変更によって増加したものを除く。）の化学的酸素要求量、窒素含有量又はりん含有量に係る Cc、Cco、Cci、Ccj、Cn、Cno、Cni、Cp、Cpo 又は Cpi の値に係る業種の区分及びその区分ごとの値の適用については、平成 31 年 3 月 31 日までの間、なお従前の例による。

平成 24 年埼玉県告示第 163 号（化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量に係る総量規制基準）は、平成 29 年 8 月 31 日限り、廃止する。

平成 29 年 7 月 4 日

埼玉県知事 上田 清司

## 1 適用する地域

水質汚濁防止法施行令（昭和 46 年政令第 188 号）別表第 2 第 1 号イに掲げる区域

## 2 適用する工場又は事業場

法第 2 条第 6 項に規定する特定事業場で、1 日当たりの平均的な排水の量が 50 立方メートル以上のもの（以下「指定地域内事業場」という。）

## 3 総量規制基準

### (1) 化学的酸素要求量

化学的酸素要求量に係る総量規制基準は、次の表の中欄に掲げる指定地域内事業場の区分ごとに同表の右欄に掲げるとおりとする。

	指定地域内事業場の区分	総量規制基準
1	昭和 55 年 7 月 1 日前に設置されている指定地域内事業場(同日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたものを含む、次項に掲げるものを除く。)	$Lc=Cc \cdot Qc \times 10^{-3}$
2	昭和 55 年 7 月 1 日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされた指定地域内事業場(工場又は事業場で、同日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設の設置又は構造等の変更により新たに指定地域内事業場となったものを含む。)及び同日以後法第 5 条の規定による届出がされた特定施設の設置により新たに設置された指定地域内事業場（次項から 2 2 の項に掲げるものを除く。)	$Lc=(Ccj \cdot Qcj+Cci \cdot Qci+Cco \cdot Qco) \times 10^{-3}$
3	水質汚濁防止法施行令及び瀬戸内海環境保全特別措置法施行令の一部を改正する政令（昭和 56 年政令第 327 号。以下「昭和 56 年改正政令」という。）の施行により昭和 57 年 7 月 1 日前に新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場(昭和 56 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、同日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを含む、次項に掲げるものを除く。)	$Lc=Cc \cdot Qc \times 10^{-3}$
4	昭和 56 年改正政令の施行により昭和 57 年 7 月 1 日前に新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場(昭和 56 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、同日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを含む。)のうち、同日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び昭和 56 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（同日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを除く。)	$Lc=(Ccj \cdot Qcj+Cci \cdot Qci+Cco \cdot Qco) \times 10^{-3}$

5	水質汚濁防止法施行令の一部を改正する政令（昭和 57 年政令第 157 号。以下「昭和 57 年改正政令」という。）の施行により昭和 58 年 1 月 1 日前に新たに指定地域内事業場となった事業場（昭和 57 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった事業場のうち、同日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを含み、次項に掲げるものを除く。）	$Lc=Cc \cdot Qc \times 10^{-3}$
6	昭和 57 年改正政令の施行により昭和 58 年 1 月 1 日前に新たに指定地域内事業場となった事業場（昭和 57 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった事業場のうち、同日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを含む。）のうち、同日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び昭和 57 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった事業場（同日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを除く。）	$Lc=(Cc_j \cdot Qc_j + Cc_i \cdot Qc_i + Cc_o \cdot Qc_o) \times 10^{-3}$
7	水質汚濁防止法施行令及び瀬戸内海環境保全特別措置法施行令の一部を改正する政令（昭和 63 年政令第 252 号。以下「昭和 63 年改正政令」という。）の施行により平成元年 4 月 1 日前に新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（昭和 63 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、同日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを含み、次項に掲げるものを除く。）	$Lc=Cc \cdot Qc \times 10^{-3}$
8	昭和 63 年改正政令の施行により平成元年 4 月 1 日前に新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（昭和 63 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、同日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを含む。）のうち、同日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び昭和 63 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（同日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを除く。）	$Lc=(Cc_j \cdot Qc_j + Cc_i \cdot Qc_i + Cc_o \cdot Qc_o) \times 10^{-3}$
9	水質汚濁防止法施行令等の一部を改正する政令（平成 2 年政令第 266 号。以下「平成 2 年改正政令」という。）の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（平成 3 年 4 月 1 日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを含み、次項に掲げるものを除く。）	$Lc=Cc \cdot Qc \times 10^{-3}$
10	平成 2 年改正政令の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（平成 3 年 4 月 1 日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを含む。）のうち、同日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び平成 2 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（同日前に法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされたものを除く。）	$Lc=(Cc_j \cdot Qc_j + Cc_i \cdot Qc_i + Cc_o \cdot Qc_o) \times 10^{-3}$
11	水質汚濁防止法施行令の一部を改正する政令（平成 3 年政令第 240 号。以下「平成 3 年改正政令」という。）の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（次項に掲げるものを除く。）	$Lc=Cc \cdot Qc \times 10^{-3}$
12	平成 3 年改正政令の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、平成 3 年 10 月 1 日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び平成 3 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場	$Lc=(Cc_j \cdot Qc_j + Cc_i \cdot Qc_i + Cc_o \cdot Qc_o) \times 10^{-3}$
13	廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の一部を改正する政令（平成 9 年政令第 269 号。以下「平成 9 年廃掃法改正政令」という。）の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（次項に掲げるものを除く。）	$Lc=Cc \cdot Qc \times 10^{-3}$
14	平成 9 年廃掃法改正政令の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、平成 10 年 7 月 29 日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び平成 9 年廃掃法改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場	$Lc=(Cc_j \cdot Qc_j + Cc_i \cdot Qc_i + Cc_o \cdot Qc_o) \times 10^{-3}$

15	水質汚濁防止法施行令の一部を改正する政令（平成 10 年政令第 173 号。以下「平成 10 年改正政令」という。）の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（次項に掲げるものを除く。）	$Lc=Cc \cdot Qc \times 10^{-3}$
16	平成 10 年改正政令の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、平成 10 年 7 月 29 日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び平成 10 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場	$Lc=(Cc_j \cdot Qc_j + Cc_i \cdot Qc_i + Cc_o \cdot Qc_o) \times 10^{-3}$
17	水質汚濁防止法施行令の一部を改正する政令（平成 11 年政令第 412 号。以下「平成 11 年改正政令」という。）の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（次項に掲げるものを除く。）	$Lc=Cc \cdot Qc \times 10^{-3}$
18	平成 11 年改正政令の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、平成 12 年 3 月 15 日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び平成 11 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場	$Lc=(Cc_j \cdot Qc_j + Cc_i \cdot Qc_i + Cc_o \cdot Qc_o) \times 10^{-3}$
19	水質汚濁防止法施行令の一部を改正する政令（平成 13 年政令第 201 号。以下「平成 13 年改正政令」という。）の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（次項に掲げるものを除く。）	$Lc=Cc \cdot Qc \times 10^{-3}$
20	平成 13 年改正政令の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、平成 13 年 8 月 1 日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び平成 13 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場	$Lc=(Cc_j \cdot Qc_j + Cc_i \cdot Qc_i + Cc_o \cdot Qc_o) \times 10^{-3}$
21	水質汚濁防止法施行令の一部を改正する政令（平成 24 年政令第 147 号。以下「平成 24 年改正政令」という。）の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（次項に掲げるものを除く。）	$Lc=Cc \cdot Qc \times 10^{-3}$
22	平成 24 年改正政令の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、平成 24 年 5 月 25 日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び平成 24 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場	$Lc=(Cc_j \cdot Qc_j + Cc_i \cdot Qc_i + Cc_o \cdot Qc_o) \times 10^{-3}$
<p><b>【備考】</b>  この表に掲げる式において、<math>Lc</math>、<math>Cc</math>、<math>Qc</math>、<math>Cc_j</math>、<math>Cc_i</math>、<math>Cc_o</math>、<math>Qc_j</math>、<math>Qc_i</math> 及び <math>Qc_o</math> は、それぞれ次の値を表すものとする。</p> <p><math>Lc</math> 排出が許容される汚濁負荷量（単位 1 日につきキログラム）  <math>Cc</math> 別表第 1 化学的酸素要求量の欄(1)に掲げる数値（単位 1 リットルにつきミリグラム）  <math>Qc</math> 特定排出水の量（単位 1 日につき立方メートル）  <math>Cc_j</math> 別表第 1 化学的酸素要求量の欄(3)に掲げる数値（単位 1 リットルにつきミリグラム）  <math>Cc_i</math> 別表第 1 化学的酸素要求量の欄(2)に掲げる数値（単位 1 リットルにつきミリグラム）  <math>Cc_o</math> <math>Cc</math> と同じ値（単位 1 リットルにつきミリグラム）  <math>Qc_j</math> 平成 3 年 7 月 1 日（12 の項にあっては同年 10 月 1 日、14 及び 16 の項にあっては平成 10 年 7 月 29 日、18 の項にあっては平成 12 年 3 月 15 日、20 の項にあっては平成 13 年 8 月 1 日、22 の項にあっては平成 24 年 5 月 25 日）以後に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量（同日以後に設置される指定地域内事業場に係る場合にあっては、特定排出水の量）（単位 1 日につき立方メートル）  <math>Qc_i</math> 昭和 55 年 7 月 1 日（4 の項にあっては昭和 57 年 7 月 1 日、6 の項にあっては昭和 58 年 1 月 1 日、8 の項にあっては昭和 63 年 10 月 1 日、10 の項にあっては平成 3 年 4 月 1 日）から平成 3 年 7 月 1 日の前日までの間に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量（同期間に設置される指定地域内事業場に係る場合にあっては、特定排出水の量（<math>Qc_j</math> を除く。））（単位 1 日につき立方メートル）  <math>Qc_o</math> 特定排出水の量（<math>Qc_j</math> 及び <math>Qc_i</math> を除く。）（単位 1 日につき立方メートル）</p>		

(2) 窒素含有量

窒素含有量に係る総量規制基準は、次の表の中欄に掲げる指定地域内事業場の区分ごとに同表の右欄に掲げるとおりとする。

	指定地域内事業場の区分	総量規制基準
1	平成14年10月1日前に設置されている指定地域内事業場（同日前に法第5条又は第7条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたものを含み、次項に掲げるものを除く。）	$Ln=Cn \cdot Qn \times 10^{-3}$
2	平成14年10月1日以後法第5条又は第7条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされた指定地域内事業場（工場又は事業場で、同日以後法第5条又は第7条の規定による届出がされた特定施設の設置又は構造等の変更により新たに指定地域内事業場となったものを含む。）及び同日以後法第5条の規定による届出がされた特定施設の設置により新たに設置された指定地域内事業場（次項から4の項に掲げるものを除く。）	$Ln=(Cni \cdot Qni + Cno \cdot Qno) \times 10^{-3}$
3	平成24年改正政令の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（次項に掲げるものを除く。）	$Ln=Cn \cdot Qn \times 10^{-3}$
4	平成24年改正政令の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、平成24年5月25日以後法第5条又は第7条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び平成24年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場	$Ln=(Cni \cdot Qni + Cno \cdot Qno) \times 10^{-3}$

【備考】

この表に掲げる式において、Ln、Cn、Qn、Cni、Cno、Qni及びQnoは、それぞれ次の値を表すものとする。

Ln 排出が許容される汚濁負荷量（単位 1日につきキログラム）

Cn 別表第2窒素含有量の欄(1)に掲げる数値（単位 1リットルにつきミリグラム）

Qn 特定排出水の量（単位 1日につき立方メートル）

Cni 別表第2窒素含有量の欄(2)に掲げる数値（単位 1リットルにつきミリグラム）

Cno Cnと同じ値（単位 1リットルにつきミリグラム）

Qni 平成14年10月1日（4の項にあっては平成24年5月25日）以後に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量（同日以後に設置される指定地域内事業場に係る場合にあっては、特定排出水の量）（単位 1日につき立方メートル）

Qno 特定排出水の量（Qniを除く。）（単位 1日につき立方メートル）

(3) リン含有量

リン含有量に係る総量規制基準は、次の表の中欄に掲げる指定地域内事業場の区分ごとに同表の右欄に掲げるとおりとする。

	指定地域内事業場の区分	総量規制基準
1	平成14年10月1日前に設置されている指定地域内事業場（同日前に法第5条又は第7条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたものを含み、次項に掲げるものを除く。）	$Lp=Cp \cdot Qp \times 10^{-3}$
2	平成14年10月1日以後法第5条又は第7条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされた指定地域内事業場（工場又は事業場で、同日以後法第5条又は第7条の規定による届出がされた特定施設の設置又は構造等の変更により新たに指定地域内事業場となったものを含む。）及び同日以後法第5条の規定による届出がされた特定施設の設置により新たに設置された指定地域内事業場（次項から4の項に掲げるものを除く。）	$Lp=(Cpi \cdot Qpi + Cpo \cdot Qpo) \times 10^{-3}$
3	平成24年改正政令の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（次項に掲げるものを除く。）	$Lp=Cp \cdot Qp \times 10^{-3}$

4	平成 24 年改正政令の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、平成 24 年 5 月 25 日以後法第 5 条又は第 7 条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び平成 24 年改正政令の施行により同日以後新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場	$L_p = (C_{pi} \cdot Q_{pi} + C_{po} \cdot Q_{po}) \times 10^{-3}$
<p><b>【備考】</b>  この表に掲げる式において、<math>L_p</math>、<math>C_p</math>、<math>Q_p</math>、<math>C_{pi}</math>、<math>C_{po}</math>、<math>Q_{pi}</math> 及び <math>Q_{po}</math> は、それぞれ次の値を表すものとする。</p> <p><math>L_p</math> 排出が許容される汚濁負荷量（単位 1 日につきキログラム）  <math>C_p</math> 別表第 3 りん含有量の欄(1)に掲げる数値（単位 1 リットルにつきミリグラム）  <math>Q_p</math> 特定排出水の量（単位 1 日につき立方メートル）  <math>C_{pi}</math> 別表第 3 りん含有量の欄(2)に掲げる数値（単位 1 リットルにつきミリグラム）  <math>C_{po}</math> <math>C_p</math> と同じ値（単位 1 リットルにつきミリグラム）  <math>Q_{pi}</math> 平成 14 年 10 月 1 日（4 の項にあっては平成 24 年 5 月 25 日）以後に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量（同日以後に設置される指定地域内事業場に係る場合にあつては、特定排出水の量）（単位 1 日につき立方メートル）  <math>Q_{po}</math> 特定排出水の量（<math>Q_{pi}</math> を除く。）（単位 1 日につき立方メートル）</p>		

別表第1 化学的酸素要求量

	業種その他の区分	化学的酸素要求量 (単位 1リットルにつき ミリグラム)			備 考
		(1)	(2)	(3)	
		Cco	Cci	Ccj	
2	畜産農業	70	70	60	
3	天然ガス鉱業	60	60	60	
4	非金属鉱業	20	20	20	
5	部分肉・冷凍肉製造業又は肉加工品製造業	40	40	30	
6	乳製品製造業	30	30	20	平成8年9月1日以後に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排水の量を除く特定排水の量(以下「平成8年9月1日前の特定施設に係る量」という。)にあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、30、30とする。
7	畜産食料品製造業(前二項に掲げるものを除く。)	40	40	30	
8	水産缶詰・瓶詰製造業				
9	寒天製造業	55	55	55	
10	魚肉ハム・ソーセージ製造業	30	30	20	
11	水産練製品製造業(前項に掲げるものを除く。)				
12	冷凍水産物製造業				
13	冷凍水産食品製造業	40	40	30	
14	水産食料品製造業(8の項から前項までに掲げるものを除き、魚介類塩干・塩蔵品製造業を含む。)				
15	野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業	30	30	30	
16	野菜漬物製造業	40	40	30	
17	味そ製造業	70	70	30	
18	しょう油・食用アミノ酸製造業	70	70	40	
19	うま味調味料製造業	20	20	20	
20	ソース製造業	30	30	30	
21	食酢製造業	40	40	30	
22	砂糖精製業				
23	ぶどう糖・水あめ・異性化糖製造業	50	50	30	
24	小麦粉製造業	30	30	30	
25	パン製造業	30	30	20	
26	生菓子製造業	40	40	30	
27	ビスケット類・干菓子製造業				
28	米菓製造業	40	40	40	
29	パン・菓子製造業(25の項から前項までに掲げるものを除く。)	40	40	30	
30	植物油脂製造業				
31	動物油脂製造業				
32	食用油脂加工業				
33	ふくらし粉・イースト・その他の酵母剤製造業	50	50	40	
34	穀類でんぷん製造業				
35	めん類製造業	30	30	30	
37	豆腐・油揚製造業				
38	あん類製造業	60	60	40	
39	冷凍調理食品製造業	30	20	20	
40	そう(惣)菜製造業のうち煮豆の製造に係るもの	30	30	30	
41	清涼飲料製造業	20	20	20	
42	果実酒製造業	30	30	30	
43	ビール製造業				

4 4	清酒製造業	4 0	4 0	3 0	
4 5	蒸留酒・混成酒製造業	3 0	3 0	2 0	
4 6	インスタントコーヒー製造業	2 0	2 0	2 0	
4 7	配合飼料製造業				
4 8	単体飼料製造業				
4 9	有機質肥料製造業				
5 0	たばこ製造業	3 0	2 0	2 0	
5 1	生糸製造業（副蚕糸精練業を含む。）	3 0	3 0	3 0	
5 5	繊維工業（5 1の項に掲げるもの及び衣服その他の繊維製品に係るものを除く。以下同じ。）で整毛工程に係るもの	7 5	7 5	7 0	
5 7	繊維工業で麻製織工程に係るもの	9 0	9 0	9 0	
5 8	繊維工業で毛織物機械染色整理工程（のり抜き、精練漂白、シルケット加工その他の染色整理工程に付帯して行われる加工処理工程（以下「染色整理工程付帯加工処理工程」という。）を含む。）に係るもの	4 0	4 0	3 0	
5 9	繊維工業で織物機械染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの（前項に掲げるものを除く。）	9 5	9 5	8 0	
6 0	繊維工業で織物手加工染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	9 0	9 0	9 0	
6 1	繊維工業で綿状繊維・糸染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	5 0	5 0	5 0	
6 2	繊維工業でニット・レース染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの				
6 3	繊維工業で繊維雑品染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	9 0	9 0	8 0	
6 4	繊維工業で不織布製造工程に係るもの	7 0	7 0	6 0	
6 5	繊維工業でフェルト製造工程に係るもの	4 0	4 0	4 0	
6 6	繊維工業で上塗りした織物及び防水した織物製造工程に係るもの				
6 7	繊維工業で繊維製衛生材料製造工程に係るもの				
6 8	繊維工業（5 5の項から前項までに掲げるものを除く。）	3 0	3 0	3 0	
6 9	一般製材業又は木材チップ製造業	4 0	4 0	4 0	
7 1	合板製造業（集成材製造業を含む。）又はパーティクルボード製造業	3 0	3 0	3 0	接着機洗浄水を循環するものにあつては、化学的酸素求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、1 0、1 0、1 0とする。
7 5	木材薬品処理業	2 0	2 0	2 0	
7 6	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で溶解パルプ製造工程に係るもの	7 0	7 0	6 0	
7 7	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でサルファイトパルプ製造工程に係るもの	6 0	6 0	6 0	
7 8	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でグラウンドパルプ製造工程、リファイナーグラウンドパルプ製造工程又はサーモメカニカルパルプ製造工程に係るもの	5 0	5 0	5 0	
7 9	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で未さらしケミグラウンドパルプ製造工程又は未さらしセミケミカルパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）	7 0	7 0	7 0	
8 0	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でさらしケミグラウンドパルプ製造工程（前工程の未さらしケミグラウンドパルプ製造工程を含む。）又はさらしセミケミカルパルプ製造工程（前工程の未さらしセミケミカルパルプ製造工程を含む。）に係るもの	8 0	8 0	8 0	
8 1	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で未さらしクラフトパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）	6 0	5 0	4 0	
8 2	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でさらしクラフトパルプ製造工程（前工程の未さらしクラフトパルプ製造工程を含む。）に係るもの	7 0	7 0	6 0	精選工程においてドラム型洗浄機を使用しているものにあつては、化学的酸素求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、8 0、7 0、6 0とする。
8 3	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で古紙を原料とするパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）	6 0	6 0	5 0	

84	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で古紙を原料とし脱インキ又は漂白を行うパルプ製造工程（前工程の離解工程を含む。）に係るもの	90	90	80	
85	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で木材又は古紙以外のものを原料とするパルプ製造工程に係るもの	100	100	70	
86	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でグランドバルブ、リファイナークランドバルブ又はサーモメカニカルパルプを主原料とする洋紙製造工程（前工程のグランドバルブ、リファイナークランドバルブ又はサーモメカニカルパルプ製造工程を有するものに限る。）に係るもの	50	40	40	
87	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で洋紙製造工程に係るもの（前項に掲げるものを除く。）	30	20	20	
88	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で板紙製造工程に係るもの	40	40	40	
89	機械すき和紙製造業	60	60	60	
90	手すき和紙製造業	90	90	80	
91	塗工紙製造業	20	20	20	
92	段ボール製造業	30	20	15	
93	重包装紙袋製造業	70	70	70	
94	セロファン製造業	25	25	15	
95	乾式法による繊維板製造業	40	40	40	
96	繊維板製造業（前項に掲げるものを除く。）	80	80	60	
97	パルプ製造業、紙製造業又は紙加工品製造業（76の項から前項までに掲げるものを除く。）	20	20	20	
100	印刷業（新聞その他の出版物を印刷するものを含む。）	50	50	50	
101	製版業				
102	窒素質・りん酸質肥料製造業	30	30	30	
103	複合肥料製造業				
104	化学肥料製造業（前二項に掲げるものを除く。）				
105	ソーダ工業	20	20	20	
106	電炉工業				
107	無機顔料製造業	20	20	20	黄鉛製造工程を有するものにあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、60、60、50とする。
108	無機化学工業製品製造業（105の項から前項までに掲げるものを除く。）	20	20	20	1 硫化鉄鉱を原料とする酸化鉄（顔料を除く。）製造工程にあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、40、40、40とする。 2 希硫酸による二酸化硫黄の洗浄工程を有する硫酸製造工程にあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、50、50、50とする。
109	石油化学系基礎製品製造業で脂肪族系中間物製造工程に係るもの	60	60	40	1 青酸誘導品含有排水を排出する工程にあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、150、150、150とする。 2 塩素化合物触媒を用いたアセトン又はアセトアルデヒドの製造工程にあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、100、80、80とする。 3 エピクロルヒドリン製造工程にあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、140、130、130とする。
110	石油化学系基礎製品製造業で環式中間物・合成染料・有機顔料製造工程に係るもの	50	50	30	合成染料又は合成染料中間物の製造工程にあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、190、190、180とする。
111	石油化学系基礎製品製造業でプラスチック製造工程に係るもの	30	20	20	メチルメタクリレート樹脂又はアクリロニトリル・ブタジエン・スチレン共重合樹脂の製造工程にあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、70、70、70とする。
112	石油化学系基礎製品製造業で合成ゴム製造工程に係るもの	40	40	40	1 乳化重合法による合成ゴム製造工程にあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、50、50、50とする。 2 クロロプレンゴム製造工程にあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、130、130、130とする。
113	石油化学系基礎製品製造業で有機化学工業製品製造工程（脂肪族系中間物製造工程、環式中間物・合成染料・有機顔料製造工程、プラスチック製造工程及び合成ゴム製造工程を除く。）に係るもの	50	50	50	1 有機ゴム薬品製造工程にあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、270、260、260とする。 2 有機農薬原体製造工程にあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、180、180、160とする。

114	石油化学系基礎製品製造業（109の項から前項までに掲げるものを除く。）	60	40	40	
115	脂肪族系中間物製造業	60	60	50	1 青酸誘導品含有排水を排出する工程にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、210、210、190とする。 2 塩素化合物触媒を用いたアセトン又はアセトアルデヒドの製造工程にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、100、80、80とする。 3 エピクロルヒドリン製造工程にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、140、130、130とする。
116	メタン誘導品製造業	30	30	20	
117	発酵工業	120	110	110	
118	コールタール製品製造業	120	120	120	
119	環式中間物・合成染料・有機顔料製造業	80	80	30	合成染料又は合成染料中間物の製造工程にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、190、190、190とする。
120	プラスチック製造業	30	20	20	1 メチルメタクリレート樹脂又はアクリロニトリル・ブタジエン・スチレン共重合樹脂の製造工程にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、70、50、50とする。 2 硝酸セルロース又は酢酸セルロースの製造工程にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、60、60、50とする。
121	合成ゴム製造業	40	40	40	1 乳化重合法による合成ゴム製造工程にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、70、70、70とする。 2 クロロブレンゴム製造工程にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、130、130、130とする。
122	有機化学工業製品製造業（109の項から前項までに掲げるものを除く。）	50	50	50	1 有機ゴム薬品製造工程にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、150、150、150とする。 2 有機農薬原体製造工程にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、180、180、160とする。
123	レーヨン・アセテート製造業のうちレーヨンの製造に係るもの	50	30	20	
124	レーヨン・アセテート製造業のうちアセテートの製造に係るもの	30	30	30	
125	合成繊維製造業	30	20	20	アクリル系繊維製造工程にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、60、40、30とする。
126	脂肪酸・硬化油・グリセリン製造業	40	40	30	
127	石けん・合成洗剤製造業	10	10	10	
128	界面活性剤製造業（前項に掲げるものを除く。）	40	40	40	
129	塗料製造業				
130	印刷インキ製造業	40	40	30	
131	医薬品原薬・製剤製造業	70	70	60	平成8年9月1日前的特定施設に係る量にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、70、70、70とする。
132	医薬品製剤製造業	30	30	30	
133	生物学的製剤製造業				
134	生薬・漢方製剤製造業	20	20	20	
135	動物用医薬品製造業	60	60	50	
136	火薬類製造業	20	20	20	硝酸エステル又はニトロ化合物の製造工程にあっては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、60、60、50とする。
137	農薬製造業	30	30	20	
138	合成香料製造業	120	110	110	
139	香料製造業（前項に掲げるものを除く。）	30	30	20	
140	化粧品・歯磨・その他の化粧品調整品製造業				
142	ゼラチン・接着剤製造業（にかわ製造業を含む。）	20	20	20	
143	写真感光材料製造業	10	10	10	
144	天然樹脂製品・木材化学製品製造業	40	40	40	
145	イオン交換樹脂製造業	160	160	130	
146	化学工業（102の項から前項までに掲げるものを除く。）	40	40	40	

147	石油精製業	20	20	20	潤滑油製造工程を有するものにあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、30、30とする。
148	潤滑油製造業（前項に掲げるものを除く。）	30	30	30	硫酸洗浄工程を有するものにあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、40、40、40とする。
149	コークス製造業	180	180	90	
150	石油コークス製造業	70	70	50	
151	自動車タイヤ・チューブ製造業	10	10	10	
152	ゴム製品製造業でラテックス成型型洗浄工程に係るもの	60	40	40	
153	ゴム製品製造業（前二項に掲げるものを除く。）	20	20	20	
154	なめしかわ製造業	100	100	100	
155	毛皮製造業	50	50	50	
156	板ガラス製造業	10	10	10	
157	板ガラス加工業				
158	ガラス製加工素材製造業				
159	ガラス容器製造業				
160	理化学用・医療用ガラス器具製造業				
161	卓上用・ちゅう房用ガラス器具製造業				
162	ガラス繊維（長繊維に限る。）・同製品製造業	50	50	50	
163	ガラス繊維・同製品製造業（前項に掲げるものを除く。）	30	30	30	
164	ガラス・同製品製造業（156の項から前項までに掲げるものを除く。）	10	10	10	
165	生コンクリート製造業				
166	コンクリート製品製造業				
167	セメント製品製造業（前二項に掲げるものを除く。）				
168	黒鉛電極製造業	20	20	20	
169	碎石製造業				
170	鉱物・土石粉碎等処理業				
172	うわ葉製造業				
173	高炉による製鉄業	10	10	10	コークス炉を有するものにあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、40、30、30とする。
175	フェオアロイ製造業	20	20	20	
176	高炉によらない製鉄業（前項に掲げるものを除く。）	10	10	10	
178	製鋼・製鋼圧延業（転炉（単独転炉を含む。）又は電気炉（単独電気炉を含む。）によるものに限る。）	20	20	20	
179	熱間圧延業（182の項及び183の項に掲げるものを除く。）				
180	冷間圧延業（182の項及び183の項に掲げるものを除く。）				
181	冷間ロール成型形鋼製造業				
182	鋼管製造業				
183	伸鉄業	10	10	10	
184	磨棒鋼製造業				
185	引抜鋼管製造業				
186	伸線業				
187	ブリキ製造業	20	20	20	
188	亜鉛鉄板製造業				
189	めっき鋼管製造業				
190	めっき鉄鋼線製造業				
191	表面処理鋼材製造業（187の項から前項までに掲げるものを除く。）	10	10	10	
192	鍛鋼製造業				
193	鍛工品製造業				

194	鑄鋼製造業					
195	鋳鉄鑄物製造業（次項及び197の項に掲げるものを除く。）					
196	鑄鉄管製造業					
197	可鍛鑄鉄製造業					
198	鉄粉製造業					
199	鉄鋼業（173の項から前項までに掲げるものを除く。）					
200	非鉄金属製造業					
201	電気めっき業	60	60	50		
202	金属製品製造業（前項に掲げるものを除く。）	1 日平均排水量500立方メートル未満の工場	20	20	20	
		2 日平均排水量500立方メートル以上の工場	10	10	10	
203	一般機械器具製造業	1 日平均排水量500立方メートル未満の工場	20	20	20	
		2 日平均排水量500立方メートル以上の工場	10	10	10	
204	電子回路製造業	20	20	20		
205	電子部品・デバイス・電子回路製造業（前項に掲げるものを除く）、電気機械器具製造業又は情報通信機械器具製造業	1 日平均排水量500立方メートル未満の工場	20	20	20	
		2 日平均排水量500立方メートル以上の工場	10	10	10	
206	輸送用機械器具製造業	1 日平均排水量2,000立方メートル未満の工場	20	20	20	
		2 日平均排水量2,000立方メートル以上の工場	10	10	10	
207	精密機械器具製造業	10	10	10		
208	ガス製造工場	20	20	20		
209	下水道業	20	20	20	標準活性汚泥法その他これと同程度に下水を処理することができる方法より高度に下水を処理することができる方法により下水を処理するものにあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、15、15、15とする。	
210	空瓶卸売業	30	20	20		
211	共同調理場（学校給食法（昭和29年法律第160号）第6条に規定する施設をいう。）	30	30	20		
212	弁当仕出屋又は弁当製造業	50	40	30		
213	飲食店	50	40	30	平成18年2月1日以後に設置されるし尿浄化槽を使用するものにあつては、化学的酸素要求量の欄の値はそれぞれ同欄の順序に従い、30、30、30とする。	
214	宿泊業					
215	リネンサプライ業	50	50	30		
216	洗濯業（前項に掲げるものを除く。）	50	40	30		
218	写真業（写真現像・焼付業を含む。）	60	60	60		
219	自動車整備業	20	20	20		
220	病院	30	30	30		
221	し尿浄化槽（建築基準法施行令（昭和25年政令第338号）第32条第1項の表に規定する算定方法により算定した処理対象人員が501人以上のものに限る。）	40	40	30	1 第2欄に規定する表に定める構造を有するし尿浄化槽より高度にし尿を処理することができる方法によりし尿を処理するものにあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、30、20とする。 2 平成18年2月1日以後に設置されるし尿浄化槽を使用するものにあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、30、30とする。 3 2のうち、建築基準法施行令第32条第3項第2号に規定する技術上の基準を満たす構造のし尿浄化槽より高度にし尿を処理することができる方法によりし尿を処理するものにあつては、化学的酸素要求量の欄の値はそれぞれ同欄の順序に従い、25、25、20とする。	
222	し尿浄化槽（建築基準法施行令第32条第1項の表に規定する算定方法により算定した処理対象人員が201人以上500人以下のものに限る。）	50	50	40	1 昭和55年7月建設省告示第1292号が適用される前のものにあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、90、90、60とする。 2 平成18年2月1日以後に設置されるものにあつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、30、30とする。	

223	し尿処理業（し尿浄化槽に係るものを除く。）	40	30	20	1 昭和62年6月30日以前に設置されたもの あつては、化学的酸素要求量の欄の値は、それぞ れ同欄の順序に従い、40、40、20とする。 2 嫌気性消化法、好気性消化法、湿式酸化法又は 活性汚泥法に凝集処理法を加えた方法より高度に し尿を処理することができる方法によりし尿を処 理するものあつては、化学的酸素要求量の欄の 値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、30、 20とする。	
224	ごみ処理業	30	30	30		
225	廃油処理業	20	20	20		
226	産業廃棄物処理業（前項に掲げるものを除く。）					
227	死亡獣畜取扱業	40	40	40		
228	と畜場					
229	中央卸売市場	20	20	20		
230	地方卸売市場					
231	試験研究機関（水質汚濁防止法施行規則（昭和46 年総理府・通商産業省令第2号）第1条の2各号に 掲げるものをいう。）					
232	2の項から前項まで に分類されないもの	1 指定地域内事業場のし尿 又は雑排水の排出に係る施 設（221の項及び222 の項に係るものを除く。）	70	70	70	
		2 上水道業又は工業用水道 業（自家用工業用水道施設 を含む。）	15	10	10	
		3 自動式車両洗浄施設	20	20	20	
		4 1から3までに分類され ないもの	50	50	50	

別表第2 窒素含有量

	業種その他の区分	窒素含有量 (単位 1リットルにつきミリグラム)		備 考
		(1)	(2)	
		Cno	Cni	
2	畜産農業	60	60	
3	天然ガス鉱業			
4	非金属鉱業	10	10	
5	部分肉・冷凍肉製造業又は肉加工品製造業	40	15	
6	乳製品製造業	30	15	
7	畜産食料品製造業（前二項に掲げるものを除く。）	30	10	
8	水産缶詰・瓶詰製造業	20	15	
9	寒天製造業	20	10	
10	魚肉ハム・ソーセージ製造業			
11	水産練製品製造業（前項に掲げるものを除く。）	25	15	
12	冷凍水産物製造業	25	10	
13	冷凍水産食品製造業	30	10	
14	水産食料品製造業（8の項から前項までに掲げるものを除き、魚介類塩干・塩蔵品製造業を含む。）	35	10	
15	野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業	20	10	
16	野菜漬物製造業	20	15	
17	味そ製造業	20	10	
18	しょう油・食用アミノ酸製造業	25	10	
19	うま味調味料製造業	20	10	
20	ソース製造業	30	10	
21	食酢製造業	20	10	
22	砂糖精製業	15	10	
23	ぶどう糖・水あめ・異性化糖製造業			
24	小麦粉製造業	20	10	
25	パン製造業	15	10	
26	生菓子製造業			
27	ビスケット類・干菓子製造業	20	10	
28	米菓製造業	25	10	
29	パン・菓子製造業（25の項から前項までに掲げるものを除く。）	30	10	
30	植物油脂製造業	10	10	
31	動物油脂製造業	30	10	
32	食用油脂加工業	15	10	
33	ふくらし粉・イースト・その他の酵母剤製造業	20	10	
34	穀類でんぷん製造業	15	10	
35	めん類製造業	30	15	
37	豆腐・油揚製造業			
38	あん類製造業	20	10	
39	冷凍調理食品製造業	35	15	
40	そう（惣）菜製造業のうち煮豆の製造に係るもの	25	10	
41	清涼飲料製造業	30	15	
42	果実酒製造業	15	10	
43	ビール製造業			
44	清酒製造業	20	10	
45	蒸留酒・混成酒製造業	15	10	

4 6	インスタントコーヒー製造業	2 0	1 0			
4 7	配合飼料製造業	1 5	1 0			
4 8	単体飼料製造業	3 0	1 0			
4 9	有機質肥料製造業	2 0	1 0			
5 0	たばこ製造業					
5 1	生糸製造業（副蚕糸精練業を含む。）					
5 5	繊維工業（5 1の項に掲げるもの及び衣服その他の繊維製品に係るものを除く。以下同じ。）で整毛工程に係るもの					
5 7	繊維工業で麻製織工程に係るもの	1 5	1 0			
5 8	繊維工業で毛織物機械染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	1 0	1 0			
5 9	繊維工業で織物機械染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの（前項に掲げるものを除く。）	1 5	1 0	綿織物捺染工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、6 0、1 0とする。		
6 0	繊維工業で織物手加工染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	2 0	1 0			
6 1	繊維工業で綿状繊維・糸染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	1 5	1 0			
6 2	繊維工業でニット・レース染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	1 0	1 0			
6 3	繊維工業で繊維雑品染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	2 0	1 0			
6 4	繊維工業で不織布製造工程に係るもの					
6 5	繊維工業でフェルト製造工程に係るもの	1 5	1 0			
6 6	繊維工業で上塗りした織物及び防水した織物製造工程に係るもの	2 0	1 0			
6 7	繊維工業で繊維製衛生材料製造工程に係るもの					
6 8	繊維工業（5 5の項から前項までに掲げるものを除く。）	1 5	1 0			
6 9	一般製材業又は木材チップ製造業	2 0	1 0			
7 1	合板製造業（集成材製造業を含む。）又はパーティクルボード製造業	1 0	1 0			
7 5	木材薬品処理業	2 0	1 0			
7 6	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で溶解パルプ製造工程に係るもの	1 0	1 0			
7 7	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でサルファイトパルプ製造工程に係るもの					
7 8	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でグランドパルプ製造工程、リファイナードグランドパルプ製造工程又はサーモメカニカルパルプ製造工程に係るもの					
7 9	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で未さらしケミグランドパルプ製造工程又は未さらしセミケミカルパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）					
8 0	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でさらしケミグランドパルプ製造工程（前工程の未さらしケミグランドパルプ製造工程を含む。）又はさらしセミケミカルパルプ製造工程（前工程の未さらしセミケミカルパルプ製造工程を含む。）に係るもの					
8 1	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で未さらしクラフトパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）					
8 2	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でさらしクラフトパルプ製造工程（前工程の未さらしクラフトパルプ製造工程を含む。）に係るもの					
8 3	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で古紙を原料とするパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）					
8 4	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で古紙を原料とし脱インキ又は漂白を行うパルプ製造工程（前工程の離解工程を含む。）に係るもの			1 5	1 0	
8 5	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で木材又は古紙以外のものを原料とするパルプ製造工程に係るもの			1 0	1 0	

8 6	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でグランドパルプ、リファイナードパルプ又はサーモメカニカルパルプを主原料とする洋紙製造工程（前工程のグランドパルプ、リファイナードパルプ又はサーモメカニカルパルプ製造工程を有するものに限る。）に係るもの	1 0	1 0	
8 7	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で洋紙製造工程に係るもの（前項に掲げるものを除く。）	1 5	1 0	
8 8	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で板紙製造工程に係るもの	1 0	1 0	
8 9	機械すき和紙製造業	1 5	1 0	
9 0	手すき和紙製造業	1 0	1 0	
9 1	塗工紙製造業			
9 2	段ボール製造業	1 5	1 0	
9 3	重包装紙袋製造業	1 0	1 0	
9 4	セロファン製造業	2 0	1 0	
9 5	乾式法による繊維板製造業			
9 6	繊維板製造業（前項に掲げるものを除く。）	1 5	1 0	
9 7	パルプ製造業、紙製造業又は紙加工品製造業（7 6の項から前項までに掲げるものを除く。）	1 0	1 0	
1 0 0	印刷業（新聞その他の出版物を印刷するものを含む。）	3 0	1 0	
1 0 1	製版業	2 0	1 0	
1 0 2	窒素質・りん酸質肥料製造業	1 5	1 0	1 アンモニア製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、4 0、3 0とする。 2 アンモニア誘導品製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、2 0 0、2 0 0とする。 3 尿素製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、7 0 0、7 0 0とする。
1 0 3	複合肥料製造業	1 5	1 0	
1 0 4	化学肥料製造業（前二項に掲げるものを除く。）	1 0	1 0	
1 0 5	ソーダ工業			
1 0 6	電炉工業	1 5	1 0	
1 0 7	無機顔料製造業	2 5	2 0	黄鉛顔料製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、5 0、4 0とする。
1 0 8	無機化学工業製品製造業（1 0 5の項から前項までに掲げるものを除く。）	2 0	1 0	1 バナジウム化合物製造工程（塩析工程を有するものに限る。）にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、5 0、4 0とする。 2 酸化コバルト製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、5 0、4 0とする。 3 モリブデン化合物製造工程（塩析工程を有するものに限る。）にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、5 0、4 0とする。 4 イットリウム酸化物製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、5 0、4 0とする。 5 酸化銀製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、5 0、4 0とする。 6 酸化ジルコニウム製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、5 0、4 0とする。 7 窒素又はその化合物を含有する原料を使用する工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、5 0、4 0とする。
1 0 9	石油化学系基礎製品製造業で脂肪族系中間物製造工程に係るもの	1 5	1 0	窒素又はその化合物を原料として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、5 0、4 0とする。
1 1 0	石油化学系基礎製品製造業で環式中間物・合成染料・有機顔料製造工程に係るもの	1 5	1 0	
1 1 1	石油化学系基礎製品製造業でプラスチック製造工程に係るもの			
1 1 2	石油化学系基礎製品製造業で合成ゴム製造工程に係るもの	1 5	1 0	窒素又はその化合物を原料又は乳化剤として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、5 0、1 5とする。
1 1 3	石油化学系基礎製品製造業で有機化学工業製品製造工程（脂肪族系中間物製造工程、環式中間物・合成染料・有機顔料製造工程、プラスチック製造工程及び合成ゴム製造工程を除く。）に係るもの	1 5	1 0	
1 1 4	石油化学系基礎製品製造業（1 0 9の項から前項までに掲げるものを除く。）			

(窒素含有量)

115	脂肪族系中間物製造業	15	10	1 窒素又はその化合物を原料として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、45、20とする。 2 青酸誘導品含有排水を排出する工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、300、300とする。
116	メタン誘導品製造業	15	10	
117	発酵工業			
118	コールタール製品製造業	330	170	
119	環式中間物・合成染料・有機顔料製造業	15	10	窒素又はその化合物を原料として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、80、10とする。
120	プラスチック製造業	10	10	窒素又はその化合物を原料又は乳化助剤として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、20とする。
121	合成ゴム製造業	15	10	窒素又はその化合物を原料又は乳化助剤として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、40、20とする。
122	有機化学工業製品製造業（109の項から前項までに掲げるものを除く。）	15	10	1 窒素又はその化合物を原料として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、20、15とする。 2 イソシアヌル酸及びその誘導品製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、20、15とする。 3 メラミン製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、850、850とする。
123	レーヨン・アセテート製造業のうちレーヨンの製造に係るもの	10	10	
124	レーヨン・アセテート製造業のうちアセテートの製造に係るもの	15	10	
125	合成繊維製造業	10	10	窒素又はその化合物を原料として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、50、35とする。
126	脂肪酸・硬化油・グリセリン製造業	10	10	
127	石けん・合成洗剤製造業	15	10	
128	界面活性剤製造業（前項に掲げるものを除く。）			
129	塗料製造業			
130	印刷インキ製造業			
131	医薬品原薬・製剤製造業	15	10	医薬品原薬製造工程（窒素又はその化合物を原料として使用するものに限る。）にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、25、20とする。
132	医薬品製剤製造業	15	10	
133	生物学的製剤製造業	20	10	
134	生薬・漢方製剤製造業	15	10	
135	動物用医薬品製造業			
136	火薬類製造業			
137	農薬製造業			
138	合成香料製造業			
139	香料製造業（前項に掲げるものを除く。）			
140	化粧品・歯磨・その他の化粧品調整品製造業			
142	ゼラチン・接着剤製造業（にかわ製造業を含む。）			
143	写真感光材料製造業			
144	天然樹脂製品・木材化学製品製造業	10	10	
145	イオン交換樹脂製造業	15	10	
146	化学工業（102の項から前項までに掲げるものを除く。）	25	10	
147	石油精製業	20	10	
148	潤滑油製造業（前項に掲げるものを除く。）			
149	コークス製造業	500	320	
150	石油コークス製造業	20	10	
151	自動車タイヤ・チューブ製造業			

152	ゴム製品製造業でラテックス成型型洗浄工程に係るもの	10	10	
153	ゴム製品製造業（前二項に掲げるものを除く。）	20	10	
154	なめしかわ製造業			
155	毛皮製造業	10	10	
156	板ガラス製造業			
157	板ガラス加工業			
158	ガラス製加工素材製造業			
159	ガラス容器製造業			
160	理化学用・医療用ガラス器具製造業			
161	卓上用・ちゅう房用ガラス器具製造業			
162	ガラス繊維（長繊維に限る。）・同製品製造業	15	10	
163	ガラス繊維・同製品製造業（前項に掲げるものを除く。）	20	10	
164	ガラス・同製品製造業（156の項から前項までに掲げるものを除く。）	10	10	
165	生コンクリート製造業			
166	コンクリート製品製造業			
167	セメント製品製造業（前二項に掲げるものを除く。）			
168	黒鉛電極製造業			
169	砕石製造業			
170	鉱物・土石粉碎等処理業			
172	うわ薬製造業			
173	高炉による製鉄業	10	10	1 コークス製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、500、320とする。 2 ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。
175	フェロアロイ製造業	15	10	
176	高炉によらない製鉄業（前項に掲げるものを除く。）	10	10	
178	製鋼・製鋼圧延業（転炉（単独転炉を含む。）又は電気炉（単独電気炉を含む。）によるものに限る。）	15	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。
179	熱間圧延業（182の項及び183の項に掲げるものを除く。）			
180	冷間圧延業（182の項及び183の項に掲げるものを除く。）	10	10	
181	冷間ロール成型形鋼製造業			
182	鋼管製造業	15	10	
183	伸鉄業	10	10	
184	磨棒鋼製造業	10	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、45、40とする。
185	引抜鋼管製造業	20	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。
186	伸線業	15	10	
187	ブリキ製造業	10	10	
188	亜鉛鉄板製造業			
189	めっき鋼管製造業	15	10	
190	めっき鉄鋼線製造業	50	10	
191	表面処理鋼材製造業（187の項から前項までに掲げるものを除く。）	55	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。
192	鍛鋼製造業	10	10	
193	鍛工品製造業	15	10	
194	鋳鋼製造業	10	10	
195	鋳鉄鋳物製造業（次項及び197の項に掲げるものを除く。）			
196	鋳鉄管製造業			

(窒素含有量)

197	可鍛鉄製造業			
198	鉄粉製造業			
199	鉄鋼業（173の項から前項までに掲げるものを除く。）	15	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。
200	非鉄金属製造業	20	10	
201	電気めっき業	30	10	窒素又はその化合物による表面処理施設を設置するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、50、35とする。
202	金属製品製造業（前項に掲げるものを除く。）	40	10	1 溶融めっき工程（窒素又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、50、40とする。 2 アルマイト加工工程（窒素又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、80、35とする。
203	一般機械器具製造業	20	10	
204	電子回路製造業	30	10	
205	電子部品・デバイス・電子回路製造業（前項に掲げるものを除く）、電気機械器具製造業又は情報通信機械器具製造業	30	10	1 民生用電気機械器具製造工程（窒素又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、15、10とする。 2 半導体素子製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、15とする。
206	輸送用機械器具製造業	30	10	自動車・同付属品製造工程（窒素又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、35、20とする。
207	精密機械器具製造業	10	10	時計・同部分品製造工程（時計を除く。）にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、10とする。
208	ガス製造工場	10	10	
209	下水道業	30	25	1 標準活性汚泥法その他これと同程度に下水中の窒素を除去できる方法より高度に下水中の窒素を除去できる方法により下水を処理するもの（高濃度の窒素を含有する汚水を多量に受け入れて処理するものを除く。）にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、20、15とする。 2 高濃度の窒素を含有する汚水を多量に受け入れて処理するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、25とする。
210	空瓶卸売業	20	10	
211	共同調理場（学校給食法第6条に規定する施設をいう。）	25	15	
212	弁当仕出屋又は弁当製造業	30	15	
213	飲食店			
214	宿泊業	40	15	
215	リネンサプライ業	20	15	
216	洗濯業（前項に掲げるものを除く。）	25	15	
218	写真業（写真現像・焼付業を含む。）	20	15	
219	自動車整備業	15	10	
220	病院	35	15	
221	し尿浄化槽（建築基準法施行令第32条第1項の表に規定する算定方法により算定した処理対象人員が501人以上のものに限る。）	50	10	第2欄に規定する表又は建築基準法施行令第32条第3項第2号に規定する技術上の基準を満たす構造のし尿浄化槽より高度にし尿を処理することができる方法によりし尿を処理するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、10とする。
222	し尿浄化槽（建築基準法施行令第32条第1項の表に規定する算定方法により算定した処理対象人員が201人以上500人以下のものに限る。）	50	15	第2欄に規定する表又は建築基準法施行令第32条第3項第2号に規定する技術上の基準を満たす構造のし尿浄化槽より高度にし尿を処理することができる方法によりし尿を処理するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、40、10とする。
223	し尿処理業（し尿浄化槽に係るものを除く。）	40	10	嫌気性消化法、好気性消化法、湿式酸化法又は活性汚泥法に凝集処理法を加えた方法より高度にし尿を処理することができる方法によりし尿を処理するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、35、10とする。
224	ごみ処理業	25	10	

2 2 5	廃油処理業		1 0	1 0	
2 2 6	産業廃棄物処理業（前項に掲げるものを除く。）		2 0	1 0	
2 2 7	死亡獣畜取扱業		2 5	1 5	
2 2 8	と畜場		6 0	1 5	
2 2 9	中央卸売市場		2 0	1 5	
2 3 0	地方卸売市場				
2 3 1	試験研究機関（水質汚濁防止法施行規則第 1 条の 2 各号に掲げるものをいう。）		3 5	1 5	
2 3 2	2 の項から前項までに分類されないもの	1 指定地域内事業場のし尿又は雑排水の排出に係る施設（2 2 1 の項及び 2 2 2 の項に係るものを除く。）	3 5	2 0	
		2 上水道業又は工業用水道業（自家用工業用水道施を含む。）	1 0	1 0	
		3 自動式車両洗浄施設	2 5	1 0	
		4 1 から 3 までに分類されないもの	3 0	1 0	

別表第3 りん含有量

	業種その他の区分	りん含有量 (単位：mg/L)		備 考
		(1)	(2)	
		Cpo	Cpi	
2	畜産農業	8	8	
3	天然ガス鉱業	1	1	
4	非金属鉱業			
5	部分肉・冷凍肉製造業又は肉加工品製造業	1.6	1	
6	乳製品製造業	8.5	1	
7	畜産食料品製造業（前二項に掲げるものを除く。）	9	1	
8	水産缶詰・瓶詰製造業	3	1.5	
9	寒天製造業			
10	魚肉ハム・ソーセージ製造業	4	1.5	
11	水産練製品製造業（前項に掲げるものを除く。）	3	1	
12	冷凍水産物製造業	3	1.5	
13	冷凍水産食品製造業	4	1	
14	水産食料品製造業（8の項から前項までに掲げるものを除き、魚介類塩干・塩蔵品製造業を含む。）	8	1.5	
15	野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業	3	1	
16	野菜漬物製造業	4	1.5	
17	味そ製造業			
18	しょう油・食用アミノ酸製造業			
19	うま味調味料製造業	1.5	1	
20	ソース製造業	4	1.5	
21	食酢製造業	3	1.5	
22	砂糖精製業	1.5	1	
23	ぶどう糖・水あめ・異性化糖製造業	3	1.5	
24	小麦粉製造業			
25	パン製造業	2	1	
26	生菓子製造業	3	1	
27	ビスケット類・干菓子製造業			
28	米菓製造業	7.5	1.5	
29	パン・菓子製造業（25の項から前項までに掲げるものを除く。）	4.5	1.5	
30	植物油脂製造業	2.5	1	米糠を原料として使用するものにあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、4、1とする。
31	動物油脂製造業	2	1	
32	食用油脂加工業	2.5	1	
33	ふくらし粉・イースト・その他の酵母剤製造業	2	1	
34	穀類でんぷん製造業	3	1.5	
35	めん類製造業	6.5	1.5	
37	豆腐・油揚製造業	7.5	1	
38	あん類製造業	8	1	
39	冷凍調理食品製造業			
40	そう（惣）菜製造業のうち煮豆の製造に係るもの	7.5	1	
41	清涼飲料製造業	2.5	1.5	
42	果実酒製造業	1.5	1	
43	ビール製造業	3	1.5	
44	清酒製造業	4	1	
45	蒸留酒・混成酒製造業	2	1	

46	インスタントコーヒー製造業	2.5	1	
47	配合飼料製造業	2	1	
48	単体飼料製造業			
49	有機質肥料製造業	1.5	1	
50	たばこ製造業	2	1	
51	生糸製造業（副蚕糸精練業を含む。）			
55	繊維工業（51の項に掲げるもの及び衣服その他の繊維製品に係るものを除く。以下同じ。）で整毛工程に係るもの			
57	繊維工業で麻製織工程に係るもの			
58	繊維工業で毛織物機械染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	1	1	
59	繊維工業で織物機械染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの（前項に掲げるものを除く。）	2	1	
60	繊維工業で織物手加工染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの			
61	繊維工業で綿状繊維・糸染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの			
62	繊維工業でニット・レース染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	1.5	1	
63	繊維工業で繊維雑品染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	2	1	
64	繊維工業で不織布製造工程に係るもの	1	1	
65	繊維工業でフェルト製造工程に係るもの			
66	繊維工業で上塗りした織物及び防水した織物製造工程に係るもの			
67	繊維工業で繊維衛生材料製造工程に係るもの	2	1	
68	繊維工業（55の項から前項までに掲げるものを除く。）	1	1	
69	一般製材業又は木材チップ製造業	2	1	
71	合板製造業（集成材製造業を含む。）又はパーティクルボード製造業	1	1	
75	木材薬品処理業	2	1	
76	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で溶解パルプ製造工程に係るもの	1	1	
77	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でサルファイトパルプ製造工程に係るもの			
78	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でグランドパルプ製造工程、リファイナードパルプ製造工程又はサーモメカニカルパルプ製造工程に係るもの			
79	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で未さらしケミグラントパルプ製造工程又は未さらしセミケミカルパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）			
80	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でさらしケミグラントパルプ製造工程（前工程の未さらしケミグラントパルプ製造工程を含む。）又はさらしセミケミカルパルプ製造工程（前工程の未さらしセミケミカルパルプ製造工程を含む。）に係るもの	2	1	
81	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で未さらしクラフトパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）	1	1	
82	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でさらしクラフトパルプ製造工程（前工程の未さらしクラフトパルプ製造工程を含む。）に係るもの			
83	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で古紙を原料とするパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）	1.5	1	
84	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で古紙を原料とし脱インキ又は漂白を行うパルプ製造工程（前工程の離解工程を含む。）に係るもの			
85	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で木材又は古紙以外のものを原料とするパルプ製造工程に係るもの	1	1	

86	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でグランドパルプ、リファイナードパルプ又はサーモメカニカルパルプを主原料とする洋紙製造工程（前工程のグランドパルプ、リファイナードパルプ又はサーモメカニカルパルプ製造工程を有するものに限る。）に係るもの	1	1	
87	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で洋紙製造工程に係るもの（前項に掲げるものを除く。）	1.5	1	
88	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で板紙製造工程に係るもの			
89	機械すき和紙製造業			
90	手すき和紙製造業	1	1	
91	塗工紙製造業			
92	段ボール製造業	1.5	1	
93	重包装紙袋製造業	1	1	
94	セロファン製造業			
95	乾式法による繊維板製造業			
96	繊維板製造業（前項に掲げるものを除く。）	1.5	1	
97	パルプ製造業、紙製造業又は紙加工品製造業（76の項から前項までに掲げるものを除く。）			
100	印刷業（新聞その他の出版物を印刷するものを含む。）	4	1	
101	製版業	2	1	
102	窒素質・りん酸質肥料製造業			
103	複合肥料製造業			
104	化学肥料製造業（前二項に掲げるものを除く。）	1	1	
105	ソーダ工業	1.5	1	
106	電炉工業	2	1	
107	無機顔料製造業	1	1	
108	無機化学工業製品製造業（105の項から前項までに掲げるものを除く。）	1	1	りん及びりん化合物製造工程にあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、2、1とする。
109	石油化学系基礎製品製造業で脂肪族系中間物製造工程に係るもの	1.5	1	りん又はその化合物を原料、触媒又は中和剤として使用するものにあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、6、5、4とする。
110	石油化学系基礎製品製造業で環式中間物・合成染料・有機顔料製造工程に係るもの	1	1	りん又はその化合物を原料、触媒又は中和剤として使用するものにあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、2、5、1とする。
111	石油化学系基礎製品製造業でプラスチック製造工程に係るもの	1.5	1	
112	石油化学系基礎製品製造業で合成ゴム製造工程に係るもの	1	1	
113	石油化学系基礎製品製造業で有機化学工業製品製造工程（脂肪族系中間物製造工程、環式中間物・合成染料・有機顔料製造工程、プラスチック製造工程及び合成ゴム製造工程を除く。）に係るもの	1	1	りん又はその化合物を原料、触媒又は中和剤として使用するものにあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、2、5、1とする。
114	石油化学系基礎製品製造業（109の項から前項までに掲げるものを除く。）	1	1	
115	脂肪族系中間物製造業	1.5	1	りん又はその化合物を原料、触媒又は中和剤として使用するものにあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、4、2、5とする。
116	メタン誘導品製造業	2	1	
117	発酵工業	1.5	1	
118	コーラル製品製造業	2	1	
119	環式中間物・合成染料・有機顔料製造業	3.5	1	りん又はその化合物を原料、触媒又は中和剤として使用するものにあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、9、4とする。
120	プラスチック製造業	2	1	
121	合成ゴム製造業	1.5	1	
122	有機化学工業製品製造業（109の項から前項までに掲げるものを除く。）	1.5	1	有機りん系農業原体製造工程にあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、2、1とする。
123	レーヨン・アセテート製造業のうちレーヨンの製造に係るもの	2	1	

1 2 4	レーヨン・アセテート製造業のうちアセテートの製造に係るもの	2	1	
1 2 5	合成繊維製造業	1	1	
1 2 6	脂肪酸・硬化油・グリセリン製造業	2	1	
1 2 7	石けん・合成洗剤製造業			
1 2 8	界面活性剤製造業（前項に掲げるものを除く。）	1. 5	1	
1 2 9	塗料製造業			
1 3 0	印刷インキ製造業	2	1	
1 3 1	医薬品原薬・製剤製造業			
1 3 2	医薬品製剤製造業			
1 3 3	生物学的製剤製造業	1	1	
1 3 4	生薬・漢方製剤製造業	2	1	
1 3 5	動物用医薬品製造業			
1 3 6	火薬類製造業	1. 5	1	
1 3 7	農薬製造業	2	1	
1 3 8	合成香料製造業	3	1	
1 3 9	香料製造業（前項に掲げるものを除く。）	2	1	
1 4 0	化粧品・歯磨・その他の化粧品調整品製造業			
1 4 2	ゼラチン・接着剤製造業（にかわ製造業を含む。）			
1 4 3	写真感光材料製造業			
1 4 4	天然樹脂製品・木材化学製品製造業	1. 5	1	
1 4 5	イオン交換樹脂製造業	1	1	
1 4 6	化学工業（1 0 2の項から前項までに掲げるものを除く。）	2. 5	1	
1 4 7	石油精製業	1	1	
1 4 8	潤滑油製造業（前項に掲げるものを除く。）	1. 5	1	
1 4 9	コークス製造業	1	1	
1 5 0	石油コークス製造業	2	1	
1 5 1	自動車タイヤ・チューブ製造業	1. 5	1	
1 5 2	ゴム製品製造業でラテックス成型型洗浄工程に係るもの	1	1	
1 5 3	ゴム製品製造業（前二項に掲げるものを除く。）	3	1	
1 5 4	なめしかわ製造業	2	1	
1 5 5	毛皮製造業			
1 5 6	板ガラス製造業	1	1	
1 5 7	板ガラス加工業			
1 5 8	ガラス製加工素材製造業	1. 5	1	
1 5 9	ガラス容器製造業	1	1	
1 6 0	理化学用・医療用ガラス器具製造業			
1 6 1	卓上用・ちゅう房用ガラス器具製造業			
1 6 2	ガラス繊維（長繊維に限る。）・同製品製造業			
1 6 3	ガラス繊維・同製品製造業（前項に掲げるものを除く。）			
1 6 4	ガラス・同製品製造業（1 5 6の項から前項までに掲げるものを除く。）			
1 6 5	生コンクリート製造業			
1 6 6	コンクリート製品製造業			
1 6 7	セメント製品製造業（前二項に掲げるものを除く。）	1. 5	1	
1 6 8	黒鉛電極製造業	1	1	
1 6 9	碎石製造業			
1 7 0	鉱物・土石粉碎等処理業			
1 7 2	うわ薬製造業			

173	高炉による製鉄業			
175	フェロアロイ製造業			
176	高炉によらない製鉄業（前項に掲げるものを除く。）			
178	製鋼・製鋼圧延業（転炉（単独転炉を含む。）又は電気炉（単独電気炉を含む。）によるものに限る。）			
179	熱間圧延業（182の項及び183の項に掲げるものを除く。）			
180	冷間圧延業（182の項及び183の項に掲げるものを除く。）			
181	冷間ロール成型形鋼製造業			
182	鋼管製造業			
183	伸鉄業			
184	磨棒鋼製造業			
185	引抜鋼管製造業	1.5	1	
186	伸線業	1	1	
187	ブリキ製造業	2	1	
188	亜鉛鉄板製造業	1	1	
189	めっき鋼管製造業			
190	めっき鉄鋼線製造業			
191	表面処理鋼材製造業（187の項から前項までに掲げるものを除く。）			
192	鍛鋼製造業			
193	鍛工品製造業	2	1	
194	鋳鋼製造業	1.5	1	
195	鋳鉄鑄物製造業（次項及び197の項に掲げるものを除く。）	1	1	
196	鋳鉄管製造業			
197	可鍛鋳鉄製造業	1.5	1	
198	鉄粉製造業	1	1	
199	鉄鋼業（173の項から前項までに掲げるものを除く。）			
200	非鉄金属製造業	2	1	
201	電気めっき業	5	1	りん又はその化合物による表面処理施設を設置するものにあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、6、1とする。
202	金属製品製造業（前項に掲げるものを除く。）	5.5	1	1 溶融めっき工程（りん又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、4、1とする。 2 アルマイト加工工程（りん又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、9、1とする。
203	一般機械器具製造業	3	1	
204	電子回路製造業	1	1	
205	電子部品・デバイス・電子回路製造業（前項に掲げるものを除く）、電気機械器具製造業又は情報通信機械器具製造業	2	1	民生用電気機械器具製造工程（りん又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、4、1とする。
206	輸送用機械器具製造業	3.5	1	自動車・同付属品製造工程（りん又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、4.5、1とする。
207	精密機械器具製造業	2.5	1	
208	ガス製造工場	2	1	
209	下水道業	3	2	1 標準活性汚泥法その他これと同程度に下水中のりんを除去できる方法より高度に下水中のりんを除去できる方法により下水を処理するもの（高濃度のりんを含有する汚水を多量に受け入れて処理するものを除く。）にあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、2、1とする。 2 高濃度のりんを含有する汚水を多量に受け入れて処理するもの（標準活性汚泥法その他これと同程度に下水中のりんを除去できる方法により下水を処理するものに限る。）にあつては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、3、2とする。

210	空瓶卸売業		4	2	
211	共同調理場（学校給食法第6条に規定する施設をいう。）		5	2	
212	弁当仕出屋又は弁当製造業		9	2	
213	飲食店		5. 5	2	
214	宿泊業		5	2	
215	リネンサプライ業		8	1	
216	洗濯業（前項に掲げるものを除く。）		7	1	
218	写真業（写真現像・焼付業を含む。）		4	2	
219	自動車整備業		2. 5	2	
220	病院		5	2	
221	し尿浄化槽（建築基準法施行令第32条第1項の表に規定する算定方法により算定した処理対象人員が501人以上のものに限る。）		6	1	第2欄に規定する表又は建築基準法施行令第32条第3項第2号に規定する技術上の基準を満たす構造のし尿浄化槽より高度にし尿を処理することができる方法によりし尿を処理するものについては、りん含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、3、1とする。
222	し尿浄化槽（建築基準法施行令第32条第1項の表に規定する算定方法により算定した処理対象人員が201人以上500人以下のものに限る。）				
223	し尿処理業（し尿浄化槽に係るものを除く。）		2	1	
224	ごみ処理業		1. 5	1	
225	廃油処理業		1	1	
226	産業廃棄物処理業（前項に掲げるものを除く。）				
227	死亡獣畜取扱業		2	2	
228	と畜場		9. 5	2	
229	中央卸売市場		4	2	
230	地方卸売市場		3	2	
231	試験研究機関（水質汚濁防止法施行規則第1条の2各号に掲げるものをいう。）		4. 5	2	
232	2の項から前項までに分類されないもの	1 指定地域内事業場のし尿又は雑排水の排出に係る施設（221の項及び222の項に係るものを除く。）	6	2	
		2 上水道業又は工業用水道業（自家用工業用水道施設を含む。）	2	1	
		3 自動式車両洗浄施設	3	1	
		4 1から3までに分類されないもの	8	1	